

## 第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）  
ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと併せてご活用ください。

～今後の貿易収支、所得収支の動向を展望し、購買力確保の重要性を説きます。

2011/9/9 「低下する日本の実質購買力 ～所得収支の受取増加により経常収支の黒字を確保～」

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～マクロ経済動向を背景に主要為替レートがどのように動くかを考えます。

2011/9/30 「金利差からみた円、ドル、ユーロ ～ユーロに下げ余地拡大の一方、円高ドル安余地は縮小～」

掲載カテゴリ：畠峰義清の「マーケットウォッチング」

～世界の景気サイクルからわが国の生産動向の先行きを読みます。

2011/9/20 「生産調整についての経験則 ～2011年度の下期にかけての調整圧力～」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～所得階層により異なった影響を与える物価動向について分析しています。

2011/9/28 「日本にも忍び寄る『スクリーフレーション』～低中所得者を苦しめる物価の二極化～」

掲載カテゴリ：永濱利廣の「エコノミック・フォーカス」

～それぞれに不安を抱える世界の先進国、新興国の経済情勢を解説します。

2011/9/9 「米国 オバマ大統領の雇用創出計画による雇用の大幅改善は期待できず ～共和党の反対により減税中心の雇用対策となる公算～」

2011/9/29 「ドイツ議会承認後の欧州財政危機の焦点 ～年内は綱渡りの展開、財政不安は来年に持ち越し～」

2011/9/28 「欧州問題の深刻化、新興国を取り巻く環境も変化 ～海外資金の動向により、経済政策の舵取りはより困難となろう～」

掲載カテゴリ：桂畑誠治・田中理の「欧米経済を探る」、西濱徹の「アジア・新興諸国経済」

### 編集後記

最近、各国で経済の日本化の懸念が叫ばれている。不動産バブルの崩壊による民間の債務削減と資産圧縮が経済成長の足かせとなり、その一方で政府債務が増加した欧米経済。「失われた〇〇年」症状に陥る漠然とした不安が高まっている。

かつて1960年代以降の英国では、社会保障制度や雇用体制が硬直化し、インフレ率と失業率がともに跳ね上がる「英国病」の状況にあったが、結果として今世紀始めに克服宣言が出されている。

このところ新興国の躍進とは対照的に、雇用の維持と成長力の衰えをくい止めることが先進国共通の課題になりつつある。本家「日本病」では不良債権問題をなんとか終息させたものの、今なおデフレの中で政治も経済も足踏みしているようだ。二十年早く課題に直面した日本が、グローバル化の試練を乗り越えて先進国病克服の先例になれば良いのだが。 (H. U)